

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	カクコホクガン メイセイケン 学校法人 明星学苑								
フリガナ大学の名称	メイセイ大学大学院 (Meisei University Graduate School)								
大学本部の位置	東京都日野市程久保2丁目1番地1号								
大学の目的	<p>明星大学大学院は、高度の学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、自己実現を目指し、社会に貢献する人を育成することを目的とする。この目的を実現するための教育研究の成果を広く社会に提供することにより、学術文化の発展に寄与するものとする。</p>								
新設学部等の目的	<p>(教育学研究科の目的) 教育学研究科では、既存の人文科学研究科教育学専攻の人材養成の目標を踏襲しつつ、「障害児者教育」及び「教科教育学」分野の充実を図り、教育の理論と実践の両面から高度な教育研究を行い、教育の本質課題に真摯に取り組むことのできる知見豊かな教育実践者及び研究者を養成する。また、博士前期課程においては、院生の希望に応じて、幼・小・中・高教諭及び特別支援学校教諭の専修免許状の取得可能な教育課程を編成し、その人材養成も併せて行う。 [博士前期課程] 教育実践者及び研究者として、教育思想・教育史、教育課程、教育方法、教育社会学、教育行財政、教育心理学、生涯学習、幼児教育、障害児者教育及び教科教育学を多面的かつ学際的に研究し、批判的省察をもって実践できる人材を養成することを目的とする。 [博士後期課程] 博士前期課程における幅広い研究の成果の上に、さらに教育学の特定の研究領域に特化した研究を行い、それを基礎として専門分野において指導的立場で活躍でき、教育学の発展に貢献できる高度な専門性を有した人材を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 教育学部教育学科
	教育学研究科 [Graduate School of Education] 教育学専攻 [Program in Education] (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (教育学)	平成26年4月 第1年次	東京都日野市程久保 2丁目1番地1号	
	(博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (教育学)	平成26年4月 第1年次		
	計		13	—	29				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>○明星大学 ※平成26年4月より学部の設置（平成25年6月別途届出） デザイン学部 デザイン学科 （学部の設置） （120） ※平成26年4月より学生募集停止 造形芸術学部 造形芸術学科 （廃止） （△90） 人文科学研究科 教育学専攻（通学課程） （博士前期課程） （廃止） （△10） （博士後期課程） （廃止） （△3） ※平成26年度より入学定員の変更 情報学部 情報学科 [定員減] （△30） ※平成26年度より名称変更（平成25年6月別途届出） 人文科学研究科（通信課程） → 教育学研究科（通信課程）</p>								

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実習	計				
教育課程	教育学研究科 教育学専攻 (博士前期課程)	53科目	2科目	—	55科目	30単位			
	教育学研究科 教育学専攻 (博士後期課程)	20科目	3科目	—	23科目	20単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	教育学研究科 教育学専攻 (博士前期課程)		10 (10)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	4 (4)
	計		10 (10)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	4 (4)
分	教育学研究科 教育学専攻 (博士後期課程)		9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
	計		9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	5 (5)
組	理工学研究科 物理学専攻 (博士前期課程)		4 (4)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 化学専攻 (博士前期課程)		6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 機械工学専攻 (博士前期課程)		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 電気工学専攻 (博士前期課程)		6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 建築・建設工学専攻 (博士前期課程)		6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 環境システム学専攻 (博士前期課程)		6 (6)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	1 (1)
	人文学研究科 英米文学専攻 (博士前期課程)		9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	1 (1)
	人文学研究科 社会学専攻 (博士前期課程)		11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
	人文学研究科 心理学専攻 (博士前期課程)		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	7 (7)
	人文学研究科 教育学専攻 (通信課程) (博士前期課程)		8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)
	情報学研究科 情報学専攻 (博士前期課程)		9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	1 (1)
	経済学研究科 応用経済学専攻 (修士課程)		9 (9)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	2 (2)
計 (博士前期課程)		86 (86)	25 (25)	1 (1)	4 (4)	116 (116)	0 (0)	15 (15)	
の	理工学研究科 物理学専攻 (博士後期課程)		4 (4)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 化学専攻 (博士後期課程)		6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 機械工学専攻 (博士後期課程)		5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 電気工学専攻 (博士後期課程)		6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 建築・建設工学専攻 (博士後期課程)		6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 環境システム学専攻 (博士後期課程)		6 (6)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
	人文学研究科 英米文学専攻 (博士後期課程)		9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	1 (1)
	人文学研究科 社会学専攻 (博士後期課程)		11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
	人文学研究科 心理学専攻 (博士後期課程)		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	7 (7)
	人文学研究科 教育学専攻 (通信課程) (博士後期課程)		8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
	情報学研究科 情報学専攻 (博士後期課程)		7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	計 (博士後期課程)		75 (75)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	95 (95)	0 (0)	9 (9)
要	合計		97 (97)	37 (37)	1 (1)	4 (4)	139 (139)	0 (0)	15 (15)

※人文学研究科教育学専攻 (通信課程) は平成26年度に教育学研究科教育学専攻 (通信課程) へ名称変更予定

※人文学研究科教育学専攻 (通信課程) は平成26年度に教育学研究科教育学専攻 (通信課程) へ名称変更予定

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体		
	事 務 職 員		193 (193)	103 (103)	296 (296)			
	技 術 職 員		7 (7)	0 (0)	7 (7)			
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)	0 (0)	5 (5)			
	そ の 他 の 職 員		6 (6)	16 (16)	22 (22)			
計		211 (211)	119 (119)	330 (330)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	197,697㎡	0㎡	0㎡	197,697㎡			
		683,812㎡	0㎡	0㎡	683,812㎡			
	運動場用地	74,314㎡	0㎡	0㎡	74,314㎡			
		94,320㎡	0㎡	0㎡	94,320㎡			
	小 計	272,011㎡	0㎡	0㎡	272,011㎡			
		778,132㎡	0㎡	0㎡	778,132㎡			
その他	14,758㎡	0㎡	0㎡	14,758㎡				
	18,621㎡	0㎡	0㎡	18,621㎡				
合 計	1,083,522㎡	0㎡	0㎡	1,083,522㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	179,566㎡ (164,392㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	179,566㎡ (164,392㎡)				
	32,714㎡ (32,714㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	32,714㎡ (32,714㎡)				
合 計	212,280㎡ (197,106㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	212,280㎡ (197,106㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	92 室	194 室	204 室	21 室 (補助職員 8人)	2 室 (補助職員 4人)			
	23 室	8 室	36 室	1 室 (補助職員 2人)	0 室 (補助職員 0人)			
115 室	202 室	240 室	22 室 (補助職員 10人)	2 室 (補助職員 4人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	教育学研究科 教育学専攻 (通学課程)			22 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図 書：908,153冊 〔283,551冊〕 学術雑誌：2,245種 〔622種〕
	教育学研究科 教育学専攻	48,900〔10,515〕 (48,000〔10,500〕)	419〔143〕 (419〔143〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	32〔0〕 (32〔0〕)	691 (691)	7 (7)	
	計	48,900〔10,515〕 (48,000〔10,500〕)	419〔143〕 (419〔143〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	32〔0〕 (32〔0〕)	691 (691)	7 (7)	
図 書 館	面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
	16,865 ㎡	728 席	1,526,000 冊					
	4,343 ㎡	292 席	363,000 冊					
	21,208 ㎡	1,020 席	1,889,000 冊					
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	8,006㎡	野球場、テニスコート						
	4,928㎡	野球場、テニスコート						
	12,934㎡							

区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	—	—	
共同研究費等		40,000千円	40,000千円	40,000千円	—	—	—	
図書購入費	45,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	—	—	—	
設備購入費	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	—	—	—	
研究科	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		経費の見積り及び 維持方法の概要 学生1人当り納付 金 心理学専攻を除く 心理学専攻 心理学専攻を除く 心理学専攻
	教育学研究科(M)	850千円	600千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	教育学研究科(D)	850千円	600千円	600千円	—千円	—千円	—千円	
	教育学研究科(M) (通信課程)	570千円	420千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	教育学研究科(D) (通信課程)	570千円	420千円	420千円	—千円	—千円	—千円	
	理工学研究科(M)	1,100千円	850千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	理工学研究科(D)	1,100千円	850千円	850千円	—千円	—千円	—千円	
	人文学研究科(M)	850千円	600千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	人文学研究科(M)	1,050千円	800千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	人文学研究科(D)	850千円	600千円	600千円	—千円	—千円	—千円	
	人文学研究科(D)	1,050千円	800千円	800千円	—千円	—千円	—千円	
	情報学研究科(M)	1,100千円	850千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	情報学研究科(D)	1,100千円	850千円	850千円	—千円	—千円	—千円	
	経済学研究科(M)	850千円	600千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入及び私立大学等経常経費補助金等							

既設大学等の状況	大学の名称		明星大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	(学部)	年	人	年次人	人		倍			
	理工学部						1.06			
	総合理工学科	4	400	—	1,600	学士(理学) 学士(工学)	1.06	平成22年度	東京都日野市 程久保2丁目1番地1号	
	物理学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	昭和39年度	平成22年4月より 学生募集停止	
	化学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	昭和39年度	(物理学科・化学科・機械システム工学科・電気電子システム工学科・建築学科・環境システム学科)	
	機械システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度		
	電気電子システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度		
	建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度		
	環境システム学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度		
	機械工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和39年度	平成17年4月より 学生募集停止	
	電気工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和39年度	(機械工学科・電気工学科)	
	人文学部						1.10			
	国際コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士(国際コミュニケーション学)	1.17	平成17年度	平成22年4月より 入学定員変更 (国際コミュニケーション学科 140→100)	
	人間社会学科	4	80	—	320	学士(社会学)	1.15	昭和40年度	人間社会学科 140→80)	
	心理学科	4	110	—	440	学士(心理学)	1.13	平成22年度		
	日本文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.09	平成22年度		
	福祉実践学科	4	60	—	240	学士(社会福祉学)	0.92	平成22年度		
	心理・教育学科	4	—	—	—	学士(心理学) 学士(教育学)	—	昭和40年度	平成22年4月より 学生募集停止 (心理・教育学科)	
	経済学部						1.09			
	経済学科	4	300	—	1,160	学士(経済学)	1.09	平成13年度	平成24年4月より 入学定員変更(経済学科280→300)	
	経営学科	4	—	—	—	学士(経営学)	—	平成17年度	平成24年4月より 学生募集停止 (経営学科)	
	情報学部						1.03			
	情報学科	4	170	—	680	学士(情報)	1.03	平成17年度		
	日本文化学部						—			
	言語文化学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成4年度	平成22年4月より 学生募集停止 (日本文化学部言語文化学科)	
	造形芸術学部						0.64			
	造形芸術学科	4	90	—	480	学士(芸術)	0.64	平成17年度	東京都青梅市長淵 2丁目590 平成24年4月より 入学定員変更(造形 芸術学科150→90)	
	教育学部						1.24			
	教育学科	4	320	—	1,280	学士(教育学)	1.24	平成22年度	東京都日野市 程久保2丁目1番地1号	
	経営学部						1.05			
	経営学科	4	200	—	400	学士(教育学)	1.05	平成24年度		
	(通信教育部)						0.04			
	教育学部						0.04			
	教育学科 (通信課程)	4	2,000	—	8,000	学士(教育学)	0.04	平成22年度		
	人文学部						—			
	心理・教育学科 (通信課程)	4	—	—	—	学士(教育学)	—	昭和42年度	平成22年4月より 学生募集停止 (人文学部心理・教育 学科(通信課程))	

既設大学等の状況	大学の名称		いわき明星大学					開設年度	所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率			
	(学部)	年	人	年次人	人		倍			
	科学技術学部						0.65		福島県いわき市中央台飯野5丁目5番地1	平成22年4月より学生募集停止 (電子情報学科・システムデザイン工学科・生命環境学科)
	科学技術学科	4	130	—	520	学士(工学)	0.65	平成22年度		
	電子情報学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度		
	システムデザイン工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度		
	生命環境学科	4	—	—	—	学士(理工学)	—	平成17年度		
	人文学部						0.67			
	表現文化学科	4	90	—	360	学士(文学)	0.59	平成17年度		
	現代社会学科	4	95	—	380	学士(社会学)	0.54	昭和62年度		
	心理学科	4	90	—	360	学士(心理学)	0.90	平成13年度		
	薬学部						0.58			
	薬学科	6	90	—	720	学士(薬学)	0.58	平成19年度	平成23年4月より入学定員変更 (薬学科150→90)	
	(大学院)									
	理工学研究科									
	(修士課程)						0.49			
	物質理学専攻	2	7	—	14	修士(物質理学)	0.43	平成4年度		
	物理工学専攻	2	7	—	14	修士(物理工学)	0.57	平成4年度		
	(博士課程)						0.00			
	物質理工学専攻	3	2	—	9	博士(理工学)	0.00	平成6年度	平成23年4月より入学定員変更 (物質理工学専攻5→2)	
	人文学研究科									
	(修士課程)						0.20			
	日本文学専攻	2	5	—	10	修士(日本文学)	0.00	平成4年度		
	英米文学専攻	2	5	—	10	修士(英米文学)	0.10	平成7年度		
	社会学専攻	2	5	—	10	修士(社会学)	0.20	平成4年度		
	臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士(臨床心理学)	0.35	平成17年度		
	(博士課程)						0.00			
	日本文学専攻	3	2	—	6	博士(日本文学)	0.00	平成6年度		
	附属施設の概要	該当なし								

(新設研究科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	教科教育学研究1G (保健体育科教育)	1・2前		2		○									兼1 兼1
	教科教育学研究2G (保健体育科教育)	1・2後		2		○									
	教科教育学研究1H (英語科教育)	1・2前		2		○			1						
	教科教育学研究2H (英語科教育)	1・2後		2		○			1						
	教育学演習 I	1通	4				○		9	4					
	教育学演習 II	2通	4				○		9	4					
合計 (55科目)		—	8	106	0	—			10	12				兼7	—
学位又は称号		修士 (教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
博士前期課程の学生は、選択科目22単位以上、必修 (論文指導科目) 8単位の計30単位を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格しなければならない。							1 学年の学期区分			2学期					
							1 学期の授業期間			15週					
							1 時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要

(教育学研究科 教育学専攻 (博士後期課程))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻科目	教育学文献特殊研究1A (西洋教育史)	1・2・3前		2		○			1							
	教育学文献特殊研究2A (西洋教育史)	1・2・3後		2		○			1							
	教育学文献特殊研究1B (日本教育史)	1・2・3前		2		○				1						
	教育学文献特殊研究2B (日本教育史)	1・2・3後		2		○				1						
	教育学調査特殊研究1A (教育課程)	1・2・3前		2		○			1							
	教育学調査特殊研究2A (教育課程)	1・2・3後		2		○			1							
	教育学調査特殊研究1B (教育心理)	1・2・3前		2		○				1						
	教育学調査特殊研究2B (教育心理)	1・2・3後		2		○				1						
	教育学調査特殊研究1C (教育行財政)	1・2・3前		2		○			1							
	教育学調査特殊研究2C (教育行財政)	1・2・3後		2		○			1							
	教育学調査特殊研究1D (臨床教育)	1・2・3前		2		○			1							
	教育学調査特殊研究2D (臨床教育)	1・2・3後		2		○			1							
	教育学調査特殊研究1E (生涯学習)	1・2・3前		2		○			1							
	教育学調査特殊研究2E (生涯学習)	1・2・3後		2		○			1							
	幼児教育学特殊研究1	1・2・3前		2		○			1							
	幼児教育学特殊研究2	1・2・3後		2		○			1							
	障害児者教育学特殊研究1	1・2・3前		2		○			1							
	障害児者教育学特殊研究2	1・2・3後		2		○				1						
	教科教育学特殊研究1	1・2・3前		2		○			2							
	教科教育学特殊研究2	1・2・3後		2		○			2							
	教育学特殊演習Ⅰ	1通	4	4				○	9	3						
	教育学特殊演習Ⅱ	2通	4	4				○	9	3						
	教育学特殊演習Ⅲ	3通	4	4				○	9	3						
合計 (23科目)		—	12	40	0		—	9	3							—
学位又は称号	博士 (教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
教育学特殊演習12単位を含み、計20単位以上を修得すること。							1 学年の学期区分		2学期							
							1 学期の授業期間		15週							
							1 時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 教育学専攻（博士前期課程））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学文献研究1A(西洋教育史)	本授業の目的は、西洋の教育史における代表的な教育制度についていくつか取り上げ、各々について目的・内容・方法・制度・行政などの包括的体系に関して考察する。人間の自由・平等を尊重する近現代教育において、ある信条や価値観を植え付ける教化を廃止し、価値判断を各自に任せてその能力を培い、主体的な生き方ができる教育環境が要請されてきた。このような教育理念発展の歴史に関連し、特にジョン・ロック、カントの人格教育論と歴史的背景を中心に研究の基礎を養う。	
	教育学文献研究2A(西洋教育史)	本授業の目的は、西洋教育史研究に係わる「教育学文献研究1A(西洋教育史)」における研究成果を踏まえ、今日の人権に関する理論的根拠を提示してきた新人文主義教育以降から現代までの教育思想の発展史について考察していく。特に、デュルケームからコールバーグに至るまでの教育思想の展開について歴史的背景を参照しながら研究する。	
	教育学文献研究1B(日本教育史)	本授業では、近世の教育史における代表的な人物の生涯と著作を日本教育史に関する文献（古典資料や最新の学術論文）の講読を行い、各自の教育史研究の意義を深化させ、日本教育史（近世及び近代）の研究方法を修得する。具体的には、前半で日本教育史の研究方法を検討するための代表的な資料を提示し、後半で受講生の研究テーマや興味関心を踏まえた史料を決定して文献講読を行う。なお、後半の教材には江戸期の教育史料を用いることとする。また、第9回から第14回の文献講読では各自担当箇所をレジュメにまとめて発表する。	
	教育学文献研究2B(日本教育史)	本授業では、日本教育史に関する文献の講読を行い、各自の教育史研究の意義を深化させ、日本教育史（近代）の研究方法を修得する。具体的には、前半で日本教育史の研究方法を検討するための代表的な資料を提示し、後半で受講生の研究テーマや興味関心を踏まえた史料を決定して文献講読を行う。なお、後半の教材には明治期の教育史料を用いることとする。また、第9回から第14回の文献講読では各自担当箇所をレジュメにまとめて発表する。	
	教育学文献研究1C(教育思想)	本授業は、教育思想に関する教育学文献研究の一教科であるので、教育学の古典といわれる作品を取り上げ解説を試みる。古代ギリシアの教育思想および中世から近世にかけての教育思想に言及するが、今日の教育に深い影響を与えたソーンについては特に丁寧に講読をする予定である。	
	教育学文献研究2C(教育思想)	本授業は、前期に引き続き、教育学の古典といわれる作品を取り上げ解説を試みる。近世から現代にかけての思想家のうちペスタロッチ・フレーベル・デューイの教育思想を中心に購読する。特に、今日の日本の学校教育に深い影響を与えたデューイについては特に丁寧に講読・解説をする。	
	教育学調査研究A(教育職)	本授業では、教育職員の職務内容、サービス・身分保障、任用・研修、指導育成・OJT等をテーマとして調査研究を行うとともに、学生自身の学部時代の教育実習やインターンシップ等による経験を踏まえ、自らが教育職員としてのキャリアデザインができるようになることを目的とする。 また、調査研究を通じて教育職に対する理解を深めるとともに、高度専門職業人あるいは研究者としての基盤を形成することを目指す。	
	教育学調査研究1B(教育方法)	本授業では、初等教育の場で、常に課題とされてきた問題解決学習と系統学習の扱い方を基礎に展開する。両者の理論分析・初等教育における実践事例と課題・情報教育の長所と短所などを考察の中心的題材とする。先行研究の分析や実践事例の探究では、基本的な知識の習得だけでなく、討議や意見交換を通して現代的意義を探っていく。過去からの流れを踏まえた上で、初等教育の段階から急速な展開をみせているICT教育実践や機器の活用についても具体的に調査し、小学校教育に必要な実践力を身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学調査研究2B (教育方法)	本授業では、中等教育の教育方法を取りまく実態と課題を把握した上で、授業実践事例を学び、自らの教育方法の理論の深化と実践力の向上に努める。中等教育の段階では、各教科ごとの教育方法観の相違も生まれてくる。そのため、授業では中等教育の目的や生徒に育てたい資質など教育の基本理念も視野に入れる。また同時に、社会や生徒の実態把握も不可欠となる。特に情報化をめぐる課題認識や実践力は今後の教育実践を展開する上で欠かせない。情報機器の効果的な活用と留意点についても探究していく。	
	教育学調査研究1C (教育課程)	本授業では、初等教育における教育課程の意義について考え、次に近年の研究動向を踏まえつつ教育課程の理論（類型、構成要素、内容の選択・配列、経営、研究開発、評価等）について理解を深める。また、教育課程の基準の必要性、学習指導要領や教育要領の特色、変遷、教育課程編成・実施の原則や配慮事項について学習した後、小学校や幼稚園における教育課程編成・実施の実情を調べ、その改善の着眼点、国及び都道府県や市町村の教育課程行政の在り方について考察する。	
	教育学調査研究2C (教育課程)	本授業では、中等教育における教育課程の意義について考え、次に近年の研究動向を踏まえつつ教育課程の理論（類型、構成要素、内容の選択・配列、経営、研究開発、評価等）について理解を深める。また、教育課程の基準の必要性、学習指導要領の特色、変遷、教育課程編成・実施の原則や配慮事項について学習した後、中学校や高等学校等における教育課程編成・実施の実情を調べ、その改善の着眼点、国及び都道府県や市町村の教育課程行政の在り方について考察する。	
	教育学調査研究1D (教育心理)	本授業では、まず心理学の代表的な研究手法について学習し、それぞれの特徴を理解する。また、教育心理学、発達心理学の代表的なトピックを扱った文献講読を行い、幼児・児童の心身の発達に焦点を当てた研究テーマの設定、データ収集の方法、結果の整理、考察の方法などについて研究の基礎を養う。さらに、障がいのある幼児及び学齢児童等の発達上の課題と学習過程について触れ、その理解を深める。	
	教育学調査研究2D (教育心理)	本授業では、教育心理学、発達心理学の代表的なトピックを扱った文献講読を行い、生徒・学生の心身の発達に焦点を当てた研究テーマの設定、データ収集の方法、結果の整理、考察の方法などについて研究手法を高める。さらに、障がいのある生徒・学生の発達上の課題と学習過程について触れ、その理解を深める。	
	教育学調査研究1E (教育行財政)	本授業は、教育行財政に関する基本的な資料（国・都道府県・市町村の各レベルにおける、審議会等答申、法律・条例、予算、各種計画・調査等）を、Webサイトから収集し、分析・比較・解釈する。特に調査統計データについては元データを取り出し分析加工し、それを基にして履修者は発表し、意見交換する。	
	教育学調査研究2E (教育行財政)	本授業は、当面する教育課題のうち更に調査が必要な課題について、まず一般的な知識を講義形式で学んだ後、学生自らが市町村、学校等のWebサイトから関連する情報を入手し、分析・整理・発表し相互に意見交換する。また、学校訪問により質問紙調査及びインタビュー調査を実践し、最後に当面する教育課題の一つについての改善策を、調査報告書として作成する。	
	教育学調査研究1F (教育相談)	本授業では、主として幼児期から児童期の子どもの発達と現代の教育現場における諸課題、家庭をめぐる課題の理解などを通して、教育相談に必要なカウンセリングマインドの姿勢と技能を身につける。 また、多様な課題に対し、科学的な知識に基づき多面的かつ柔軟に把握し、支援方法が理解できることを目指す。さらに、高度専門職業人あるいは研究者を目指す者として、高い社会性と倫理感覚を身につけることを目的とする。	
	教育学調査研究2F (教育相談)	本授業では、主として少年期から青年期の発達と現代の教育現場における諸課題、家庭をめぐる課題の理解などを通して、教育相談に必要なカウンセリングマインドの姿勢と技能を身につける。 また、多様な課題に対し、科学的な知識に基づき多面的かつ柔軟に把握し、支援方法が理解できることを目指す。さらに、高度専門職業人あるいは研究者を目指す者として、高い社会性と倫理感覚を身につけることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学調査研究1G (臨床教育)	教育理論と教育実践を統合する臨床教育学の先駆的アプローチに学びつつ、臨床教育学の課題について探究する。また、teaching, caring, transformationという教師と子供の三つの関係性について考察し、「主体変容」を基本理念とするホリスティック教育の理論と実践について学ぶ。さらに、感性教育についての理論と先駆的实践について探究し、ホリスティック教育の原典といえるスマッツの『ホーリズムと進化』をヒントに、ホリスティック教育と感性教育の接点を探る。	
	教育学調査研究2G (臨床教育)	「脳科学と教育」をめぐる動向を踏まえて、脳科学教育の先駆的実践について、具体的な実践記録、アンケート調査資料、配布資料、研究論文などに基づいて分析し、考察する。親学の基本は、教育の第一義的責任は親にあり、子供の発達段階に応じた、母性的なかかわりと父性的なかかわりが子供の自立の基盤となる点にあるが、これらのかかわり方についての科学的知見・情報について考察する。さらに、親学推進議員連盟や家庭教育支援法、家庭教育支援条例をめぐる取り組みについて考察し、家庭教育支援の新たな課題について探究する。	
	教育学調査研究1H (生涯学習)	本授業の要旨と狙いは、生涯教育(生涯学習)がややもすると、社会教育とほぼ同義であると思われていることに対し、学校教育と社会の双方からの人の発達を中心に各々の教育の係わりについて概括し、学校教育と社会教育の各々の歴史的進展と学習機会との関わりについて考察していく。本授業では特に法令面に焦点を当て、学校教育と社会教育の双方に係わる生涯学習の現状について調査していく。	
	教育学調査研究2H (生涯学習)	本授業は、生涯学習研究に係わる「教育学調査研究1H(生涯学習)」における研究成果を踏まえ、「生涯教育」が提唱されてきた1960年代以降の世界的趨勢を調査し、これに併せて、日本における政府関係の生涯学習に係る各種審議会の各答申とそれに呼応した立法及び行政施策等を調べ、その結果としての現状について考察していく。	
	幼児教育学研究1A (保育課程・指導法)	本授業は、我が国の保育所と幼稚園の成立過程を踏まえながら、近年、そのような保育施設でみられる子どもの実態や、地域・家庭で抱える子育て困難などについて触れ、保育ニーズがどのような変遷をたどってきたのか、その際、それに呼応してどのような保育実践が積み上げられ、教育課程や指導方法が変わってきたのかについて、文献研究、調査、討論などを通して学ぶ。	
	幼児教育学研究2A (保育課程・指導法)	本授業は、日本の保育方法や保育形態のあり方について教育課程や指導法との関わりから考察する。その際、世界のOECD加盟国で近年取り組まれている保育・幼児教育改革にも触れながら、ECEC(乳幼児保育)において期待される保育者の役割と専門性、「保育の質」向上のための必須条件などについて考察する。	
	幼児教育学研究1B (保育内容)	本授業では、幼稚園教育課程を構成する保育内容のうち、「健康」分野に関し幼児期の体格・形態発達の特徴、生理的機能や運動機能等についてさまざまな学会誌やジャーナル等の学術論文を中心に文献購読し、この知見を基に、健康教育のための教材分析や保育者の健康指導上の留意点について研究する。教材内容の検討に際しては、乳幼児にとっての運動遊びの発達上の意義と併せて安全教育等についても併せて考察していく。	
	幼児教育学研究2B (保育内容)	本授業では、幼稚園教育課程を構成する保育内容のうち、「表現」分野の音楽表現に関し幼児期の音楽的発達及び身体的・運動的発達等について、フレール、ジャック＝ダルクロワ及びコダーイの音楽教育理論を考察し、これらの理論を基に、音楽表現活動を構成する内容について教材分析を行い、幼児教育に係わる指導上の留意点について研究する。教材内容の検討に際しては、履修者は実際にリズムや旋律、歌唱等について身体運動を通し体験し、併せて幼児の実際上の活動を観察し、研究を進める。	
	障害児者教育学研究1A (障害児者教育理論)	本授業は、障害児童が受ける学校教育における特別支援教育の目的・内容・方法・制度や諸条件等について、学士課程教育における学習の成果を踏まえ、研究的視点をもって考察する。特に特別支援教育に関する歴史的発展を各時代の法令や制度に焦点を当て、現行制度に至るまでの過程を調査研究する。本研究に際し、統合教育論や交流教育論の出現とそれに対する制度上の対応等についても考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	障害児者教育学研究2A (障害児者教育理論)	本授業では、障害児教育に係る研究基礎としての「障害児者教育学研究1A (障害児者教育理論)」における研究の成果の上に、特に特別支援教育に関する理念と制度に焦点を当て研究する。研究に際しては、特別支援教育に係わる政府の各種答申とそれを反映した制度の改革について調査し、これらを踏まえた上で、必要に応じて特別支援学校において質問調査等を行い、より望ましい特別支援教育のあり方について考察する。	
	障害児者教育学研究1B (障害児者発達・心理)	本授業は、視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者、知的障害者、発達障害者、それぞれの障害と心理特性について概説しつつ、障害者の生涯にわたる発達と学習の支援に関する知見を深める。また、家族・保護者支援や指導計画作成、キャリア教育など現場で役立つ知識・スキルの教授も行う。 講義ばかりでなく、学生間でのグループワークや発表、討論といった双方向コミュニケーションを大切にすることで、主体的な学び合いの授業となるように努める。	
	障害児者教育学研究2B (障害児者発達・心理)	本授業は、多様な障害に関する概括的な理解を前提に、生涯にわたる発達と学習の支援に関する最新の知見に触れつつ、それぞれの障害に応じた発達と心理特性について理解を深める。いくつかのトピックスを取り上げ、「障害児者教育学研究1B (障害児者発達・心理)」で学んだ内容を更に掘り下げる。 講義ばかりでなく、学生間でのグループワークや発表、討論といった双方向コミュニケーションを大切にすることで、主体的な学び合いの授業となるように努める。	
	障害児者教育学研究1C (障害児者教育課程)	本授業では障害のある幼児・児童・生徒一人ひとりに対して、発達段階や教育的ニーズに応じた教育を実施する特別支援学校制度の趣旨に鑑み、さまざまな障害種に対応することができる教育課程の編成とそれをバックアップしていく体制づくりや、学校間の連携などについて研究する。 また、高度専門職業人を目指す者として、学習指導要領を踏まえ、特別支援教育に係る適切な教育課程編成ができるだけの力量を身につけることを目的とする。	
	障害児者教育学研究2C (障害児者教育課程)	本授業では、調査研究等を通じて幼児・児童・生徒一人ひとりの障害の状態・発達の段階・特性、地域や学校の実態等を十分考慮した教育課程や個別の指導計画の作成、個別の教育支援計画の策定等について研究することを目的とする。 また、特別支援学校と小・中学校等の通常学級や特別支援学級、通級指導における障害児者の教育等との連携等にも焦点をあてて研究を行い、幅広い視野で特別支援教育を捉えることができる高度専門職業人あるいは研究者となることを目指す。	
	障害児者教育学研究D (知的障害児者教育方法)	本授業では、知的障害児者に関する指導法について授業分析などを通して研究し、知的障害児者の教育方法にかかわる技術を習得するとともに諸課題を探索する。 具体的には知的障害児者の障害特性の理解をはじめ、教科の特徴とその指導、領域と教科を合わせた指導、自立活動、ICTの活用や教材開発などを取り上げ、高度専門職業人を目指す者として個別の指導計画の作成と個別の教育支援計画の策定ができる力量を備え、幼児・児童・生徒の発達段階に応じた指導・支援力を身につけることを目的とする。	
	障害児者教育学研究E (肢体不自由児者教育方法)	本授業では、肢体不自由者に関する指導法について授業分析などを通して研究し、知的障害児者の教育方法にかかわる技術を習得するとともに諸課題を探索する。 具体的には肢体不自由者の障害特性の理解をはじめ、肢体不自由者教育の特徴とその指導、領域と教科を合わせた指導、自立活動、ICTの活用や教材開発などを取り上げ、高度専門職業人を目指す者として個別の指導計画の作成と個別の教育支援計画の策定ができる力量を備え、幼児・児童・生徒の発達段階に応じた指導・支援力を身につけることを目的とする。	
	障害児者教育学研究F (病弱者教育方法)	本授業では、病弱者に関する指導法について授業分析などを通して研究し、知的障害児者の教育方法にかかわる技術を習得するとともに諸課題を探索する。 具体的には病弱者の障害特性の理解をはじめ、病弱者教育の特徴とその指導、領域と教科を合わせた指導、自立活動、ICTの活用や教材開発などを取り上げ、高度専門職業人を目指す者として個別の指導計画の作成と個別の教育支援計画の策定ができる力量を備え、幼児・児童・生徒の発達段階に応じた指導・支援力を身につけることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	障害児者教育学研究G (発達障害児者教育方法)	本授業では、発達障害について医学・生理学的な基礎知識を学ぶとともに、発達障害児者の教育方法について、発達障害の病因と疫学、診断、治療方法、及び予後予測について理解を深め、研究する。 また、知的障害と学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)等の個々の発達障害について詳細な理解を深めると同時に指導・支援法を身につけ、発達障害児支援教育者あるいは研究者としての基盤を形成する。	
	障害児者教育学研究1H (発達障害)	本授業では、小児の心身の発達とその評価法を学び、発達の障害と障害への介入法を考察することにより、発達障害児の教育を医学・生理学的な視点から捉える能力を養う。具体的には、まず正常な小児の発達と成長を医学・生理学・科学的に学び、次に発達障害の病因と疫学、診断、治療方法、予後予測を概観する。さらに知的障害と学習障害について詳細な理解を深め、合併症と関連疾患について考察し、発達障害児支援教育者としての研究基盤を形成する。	
	障害児者教育学研究2H (発達障害)	本授業では、発達障害に関する基本的研究態度を身につけるための「障害児者教育学研究1H(発達障害)」における研究基礎の上に、発達障害者支援法が定める発達障害児者の分類に応じた教育支援体制について調査し、ソーシャル・スキル・トレーニング等による障がいに対応する教育方法について考察する。	
	教科教育学研究1A (国語科教育)	本授業では、『学習指導要領』の重要な項目について、より一層の理解を深め、学部時代の教育実習やインターンシップ体験などで、受講者一人一人の国語を尊重する意識が高まっていることの上に「言葉を育む詩歌の授業」や「伝統的な古典文化の授業」「日中漢字文化を生かした漢字・語彙指導」などを授業に加える。これらに、最新の講座内容で、それぞれの受講者が、やがて自らも教壇に立つ際のヒントとなる授業を複数準備し、相対的評価から絶対的評価へと移り変わった評価の方法についても、またメディア・リテラシーについても研究する。	
	教科教育学研究2A (国語科教育)	本授業は、実際の指導を想定して、教材研究と学習指導案の作成を行う。著者研究と本文構成、叙述と注解、発問及び板書作成という手順で、小説、評論、詩歌、古典(漢文含む)を学んでゆく。事典や辞書を引いて調べたり、生徒に発問する事柄を体系的に考えてゆくことになる。テキストについては、参加学生と話し合っ、決めるつもりである。そこには大学院ならではの、少人数による教育の可能性(伝え合う力の育成)もあると考える。本講座では、学部時代以上のスキル・アップを目指して、生徒に接する際の態度や方法についても、より詳細に検討してゆく。	
	教科教育学研究1B (社会科教育)	社会科の目標は小中学校を通して公民的資質の基礎を養うことに主眼がある。このことが小中学校でどのように理解されどのように実践されているかについて、研究実践を分析し、社会科授業研究のあり方を探求する。併せて、小中学校での公民的資質の基礎を養う授業が高等学校の公民の授業とどのように結び付いていくのかを探求する。	
	教科教育学研究2B (社会科教育)	教育基本法が改正され学校教育法が改正されてから、学校は小学校と中学校の接続や指導の一貫性を求められるようになった。ここにおいて、社会科教育の課題、即ち社会的な見方や考え方の育成に関してその方法についての確かな答えの準備がない。そこで、小中学校における社会科の授業記録から、児童生徒の「社会的な見方や考え方」に関する関連表現を分析・評価し、これからの社会科授業研究のあり方を探求する。	
	教科教育学研究1C (数学科教育)	本授業は、数学科の授業の在り方を歴史的・比較教育的にも検討し、今後のあるべき算数・数学科の授業の在り方を個別の課題を事例に指導計画・実践・評価の実際的な試行を加味しながら具体的に展開する。	
	教科教育学研究2C (数学科教育)	本授業は、最近の算数・数学科教育における教育方法の事例を整理し、教育方法の理論的背景についても講義する。 実践研究の成果を教育研究し、教育方法における学習指導の在り方を授業や授業外での実践の具体的な事例に手がかりを求め論議する。	
教科教育学研究1D (理科教育)	『日本理科教育史』を読み、討論することによって「日本における科学教育の成立」について理解できるようにする。また、「これまでの理科教育の欠陥」について学び・整理し、「これからの理科教育はどうあるべきか」について考察していく。さらに、優れた理科の教材(実践記録)を学ぶことによって、「たのしい理科の授業の成立条件」を示せるようにする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教科教育学研究2D (理科教育)	理科教育についての研究方法論をさまざまな具体的研究事例に則して理解を深めていく。たとえば、教材、教具、授業プランなどを開発したりしながら理科教育の実践的研究方法を学ぶ。また、授業記録（ビデオ・授業記録ノート）をもとに理科の授業の具体的な場面で出会う諸課題を抽出し、個人・グループ・全体討論により追究し、自分なりのとらえ方や解決方法を検討する。	
	教科教育学研究1E (音楽科教育)	本授業は、音楽教育と音楽科教育の歴史や考え方に目を向けながら、現在の学習指導要領（音楽）の内容を複眼的に捉えていく。基本的な活動分野（歌唱・器楽・創作・鑑賞）の指導について、先人の優れた実践を検討することを通じ、生徒の可能性を引き出すための教材研究法を学ぶ。これを応用して、各活動分野を中心とした授業の構想を試みる。その際、部分的な模擬授業も取り入れる。 また特に、課題とされている日本の伝統的な音楽の扱いについて、受講生が学んできた実技技能の向上を促しながら、具体的な題材を提示して2～3種類の授業が出来るようにする。	
	教科教育学研究2E (音楽科教育)	本授業の目的は、現在の学習指導要領（音楽）とその意義を複眼的に捉えた上で、今後のより良い音楽科教育を具体的に思い描き、提案できるようにする。生徒の生活や内面的世界と連関させることを念頭に、新しい教材やその指導法（評価法を含む）の開発にチャレンジしていく。その際、部分的な模擬授業も取り入れる。また特に、課題とされている日本の伝統的な音楽の扱いについて、具体的な題材を提示するので、「教科教育学研究1E（音楽科教育）」における学習を踏まえ、積極的な授業構想を提案してほしい。	
	教科教育学研究1F (美術科教育)	本授業では、美術科教育の目的、内容、方法について基本問題を理解し、意見交換をしながら掘り下げて研究する。ここでは、明治以降の美術教育の流れを確認し、戦後の学習指導要領の変遷をたどった上で、いくつかの美術科教育実践の内容と方法を取り上げ、その成果や課題を分析する。その際、必要に応じて実制作や模擬授業・ワークショップを行い体験的に学ぶ。また、美術科の授業研究論文を取り上げ、背景にある考え方に触れながら、分析・考察し、自ら課題を発見し研究を進める。	
	教科教育学研究2F (美術科教育)	本授業では、美術科教育で扱ってきた主な題材について、その背景にある考え方に触れながら、教材分析を行う。表現領域の絵画、彫刻、デザイン、工芸、映像メディアについて、特に「材料」と「主題」という観点から考察し、題材の設定や教材化を試みた上で、教材分析の意義について理解する。その際、必要に応じて実制作や模擬授業・ワークショップを行い体験的に学ぶ。また、鑑賞領域について、現状を捉えたうえで、教材を分析し、教材開発を試みる。	
	教科教育学研究1G (保健体育科教育)	本授業では、保健体育分野の中から運動生理学、バイオメカニクス等の研究領域に焦点を絞り、様々な学会誌やジャーナルなどの学術論文を中心に文献購読し、保健体育科教育課程編成上の諸問題について基礎的研究を行う。これに基づき、保健体育科教育課程・授業方法の今日的課題について考察する。	
	教科教育学研究2G (保健体育科教育)	本授業では、保健体育教育に係わる教育課程運営上の問題を学習指導要領の変遷を視野に入れながら取り上げる。具体的には、代表的な保健体育科の授業研究論文を取り上げ、それらに基づく模擬授業やワークショップを行い、それらの研究活動を通して、授業の分析・評価等を行い、研究を進める。	
	教科教育学研究1H (英語科教育)	本授業では、言語教育に関連する実証的な研究論文や文献資料の講読と指導方法に関する議論を通じて、英語教育における重要な諸要素を検討する。具体的にはヨーロッパ言語参照枠などの行動志向の言語教育の先行例などと比較して、日本の英語教育の問題点の分析を行うことから、教育課程や教授法の検討を行う。各自、communicative language teachingに関するテーマを設定し、調査・発表を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教科教育学研究2H (英語科教育)	<p>本授業では、日本の学校現場において、学習指導要領を踏まえて communicative language teaching を学校現場で効果的に実践する方法を検討する。具体的には、検定教科書を用いてどのように効果的に communicative language teaching を行うかを実証的な論文や文献をもとに研究する。リスニング、スピーキング、リーディング、およびライティングの各技能に関して、実際に授業の場で体験的に実践し、検討を行う。各自、具体的な指導方法に関するテーマを設定し、調査・発表を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学演習 I	<p>(概要) 修士論文を作成するために、研究指導教員から研究指導を受ける科目である。当演習では研究指導を通じて教育学研究に必要な文献研究及び調査研究の理論や手法を学ぶとともに、関係する先行研究について調査・分析し、それらの成果を基に研究計画書を取りまとめ、修士論文作成のための準備を進める。研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 青木 秀雄) 近代西洋教育史に関連した教育問題の研究に取り組んで、修士論文の作成に資する技能の基礎を養う。</p> <p>(2 小川 哲生) 官制用語である「生涯学習社会」における、生涯学習の機会、内容、方法、条件等について、理念を基にして、制度の整備に関する研究を行う。</p> <p>(3 齋藤 政子) 乳幼児の発達支援や乳幼児保育・教育に関する研究を行うための方法論と「問い」の立て方について、先行研究を読み合わせながら学び、各自の研究課題にアプローチする。</p> <p>(4 阪井 恵) 音楽教育の哲学・思想、特定人物の音楽教育論等、音楽教育観の研究をはじめ、現代の音楽科教育と関係するカリキュラム、教科書等の研究（国際比較を含む）、音楽の授業や指導法の研究を対象に研究指導を行う。</p> <p>(5 高橋 史朗) 臨床教育学の概念の成立をテーマに、臨床教育学のわが国における展開と系譜をたどり、心理学・教育学・福祉・医療系の臨床教育学論、臨床教育学への現実的、理念的要請について、後半は臨床教育学の大学・大学院のカリキュラムの分析を中心に考察し、ホリスティック臨床教育学の樹立にむけてアプローチする。</p> <p>(6 西本 絹子) 主に乳幼児期から児童期の子どもの発達をめぐる問題（発達障害・家庭養育問題・社会性発達の困難等）に関し、発達心理学の視点から教育現場における支援を対象に研究指導を行う。</p> <p>(7 林 一夫) 明治以降の国の教育予算の推移に関する研究を行う。我が国の教育予算はOECD加盟国で最も少ない位置にあり、かつ、増加傾向の他国に対して減少傾向にある。国の予算の推移に関連指標との関係で分析し、今後の増加方策を研究する。</p> <p>(8 菱山 覚一郎) 問題解決学習の理論と構造、学力との関係等の課題を通して、問題解決学習の本質を追究する。過去の教育実践を考察し、現代的な意義を探る。</p> <p>(10 吉富 芳正) 教育課程編成の原理などの教育課程の理論、国による学習指導要領の設定や教育委員会の施策などの教育行政、学校における教育課程の編成の実際やカリキュラムマネジメントなどの教育実践を中心に研究指導を行う。</p> <p>(15 清田 洋一) 教科教育に関する研究論文のチュートリアル・ゼミナールで、授業におけるディスカッションを通じて、各自がテーマを設定した研究論文の完成度を向上させることを目標とする。</p> <p>(19 廣嶋 龍太郎) 日本近代の教育思想や教育制度について、史料の読解、時代背景の検討といった文献研究を中心とする研究方法を用いながら研究指導を行う。</p> <p>(20 布施 光代) 幼児期、児童期の子どもの概念や知識構造の発達の变化と小学生の子どもたちの積極的授業参加行動の様相とその変化について研究指導を行う。</p> <p>(22 森下 由規子) 通常の学級に在籍する様々な発達に偏りのある児童・生徒に対しての指導・支援の方法を実践的に研究する。一人一人のニーズに応じた支援を実践するために、アセスメントを活用した指導計画の立て方、学級経営の在り方、理解推進の具体的方策等を考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学演習Ⅱ	<p>(概要) 教育学演習Ⅰの研究指導に引き続き、修士論文を作成するために、研究指導教員から研究指導を受ける科目である。当演習では教育学研究の講義科目で学んだ知識・理論を統合し、研究課題を深めるとともに、教育学研究に係わる各種文献研究、調査研究等の成果を基に修士論文をまとめる。 研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 青木 秀雄) 近代西洋教育史に関連した教育問題の研究に取り組んで、修士論文の作成に資する技能の基礎を養う。</p> <p>(2 小川 哲生) 官制用語である「生涯学習社会」における、生涯学習の機会、内容、方法、条件等について、理念を基にして、制度の整備に関する研究を行う。</p> <p>(3 齋藤 政子) 諸外国の乳幼児教育課程を発達の視点から検討し、乳幼児の発達を促す保育・教育のあり方について考察する。その上で子どもと子育てを取り巻く社会と教育を多面的に見る視点を文献講読を通して養う。</p> <p>(4 阪井 恵) 音楽教育の哲学・思想、特定人物の音楽教育論等、音楽教育観の研究をはじめ、現代の音楽科教育と関係するカリキュラム、教科書等の研究（国際比較を含む）、音楽の授業や指導法の研究を対象に研究指導を行う。</p> <p>(5 高橋 史朗) 臨床教育学の概念の成立をテーマに、臨床教育学のわが国における展開と系譜をたどり、心理学・教育学・福祉・医療系の臨床教育学論、臨床教育学への現実的、理念的要請について、後半は臨床教育学の大学・大学院のカリキュラムの分析を中心に考察し、ホリスティック臨床教育学の樹立にむけてアプローチする。</p> <p>(6 西本 絹子) 主に乳幼児期から児童期の子どもの発達をめぐる問題（発達障害・家庭養育問題・社会性発達の困難等）に関し、発達心理学の視点から教育現場における支援を対象に研究指導を行う。</p> <p>(7 林 一夫) 明治以降の国の教育予算の推移に関する研究を行う。我が国の教育予算はOECD加盟国で最も少ない位置にあり、かつ、増加傾向の他国に対して減少傾向にある。国の予算の推移に関連指標との関係で分析し、今後の増加方策を研究する。</p> <p>(8 菱山 覚一郎) 問題解決学習の理論と構造、学力との関係等の課題を通して、問題解決学習の本質を追究する。過去の教育実践を考察し、現代的な意義を探る。</p> <p>(10 吉富 芳正) 教育課程編成の原理などの教育課程の理論、国による学習指導要領の設定や教育委員会の施策などの教育行政、学校における教育課程の編成の実際やカリキュラムマネジメントなどの教育実践を中心に研究指導を行う。</p> <p>(15 清田 洋一) 教科教育に関する研究論文のチュートリアル・ゼミナールで、授業におけるディスカッションを通じて、各自がテーマを設定した研究論文の完成度を向上させることを目標とする。</p> <p>(19 廣嶋 龍太郎) 日本近代の教育思想や教育制度について、史料の読解、時代背景の検討といった文献研究を中心とする研究方法を用いながら研究指導を行う。</p> <p>(20 布施 光代) 幼児期、児童期の子どもの概念や知識構造の発達の变化と小学生の子どもたちの積極的授業参加行動の様相とその変化について研究指導を行う。</p> <p>(22 森下 由規子) 通常の学級に在籍する様々な発達に偏りのある児童・生徒に対しての指導・支援の方法を実践的に研究する。一人一人のニーズに応じた支援を実践するために、アセスメントを活用した指導計画の立て方、学級経営の在り方、理解推進の具体的方策等を考察する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 教育学専攻（博士後期課程））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学文献特殊研究1A（西洋教育史）	教育思想には、ある人の思想（thought）の体系と、ある時代・文化圏の教育についての考え方（ideas）の二つがある。たとえば、18世紀西欧の教育思想をルソーとカントに代表させ、その時代の教育思想とすることには無理がある。両者の崇高な教育理念はその時代の教育思潮の頂点ではあるが、その裾野に広がる庶民の教育実践に浸透していたわけではない。そこで、社会・文化的文脈から、ロックを中心とする英国の啓蒙期教育思想と中等教育の発展過程について考察する。これにより、その時代と文化的背景を踏まえた教育史の理解ができることをねらいとする。	
	教育学文献特殊研究2A（西洋教育史）	「教育学文献特殊研究1A（西洋教育史）」を踏まえ、社会・文化的文脈から、英国の産業革命期から近代公教育制度の成立過程における教育史について考察する。産業革命をいち早く成し遂げた英国において、宗教的ヴォランテアによる民衆教育は世界に先駆けて発展した。しかし、義務教育制度の導入は遅く、日本とさして変わらない時期となった。英国の社会・歴史的背景を踏まえ、この間とその後の中等教育の発展とを併せて考察することにより、英国近代教育史の特徴を把握すると共に、教育史考察の基本的な視座を得ることをねらいとする。	
	教育学文献特殊研究1B（日本教育史）	本授業では、近世を中心とした日本教育史に関する文献（古文書、古典資料や最新の学術論文など）の講読を行い、受講者の教育史研究の意義を深化させ、日本教育史の研究手法の修得と向上を目指す。具体的には、前半で日本教育史の研究手法を検討するための代表的な資料を提示し、後半で受講生の研究テーマを踏まえた史料を決定して文献講読を行う。なお、後半の教材には江戸時代の教育史料を用いることとし、担当箇所をレジュメにまとめて発表する。	
	教育学文献特殊研究2B（日本教育史）	本授業では、近代を中心とした日本教育史に関する文献（古典資料や最新の学術論文など）の講読を行い、受講者の教育史研究の意義を深化させ、日本教育史の研究手法の修得と向上を目指す。具体的には、前半で日本教育史の研究手法を検討するための代表的な資料を提示し、後半で受講生の研究テーマを踏まえた史料を決定して文献講読を行う。なお、後半の教材には明治期の教育史料を用いることとし、担当箇所をレジュメにまとめて発表する。	
	教育学調査特殊研究1A（教育課程）	教育課程に関する制度や政策、学校での教育課程の編成・実施の実際を主に扱う。教育課程の基準の設定などの国や地方における教育課程に関する制度や政策の意図、経緯、現状等について、文献や資料の講読、調査等により構造的に把握した上で、教育分野における地方分権の進め方などの具体的課題への対応の方向性について考察を行う。また、学校現場における教育課程編成の実際について、調査等により把握するとともに、各学校がPDCAサイクルの中で主体的に課題を発見しすべての教育資源を効果的に活用して動的に改善を進めるカリキュラムマネジメントの理論と具体化について追究する。	
	教育学調査特殊研究2A（教育課程）	教育課程に関する理論を主に扱う。教育課程の概念、教育課程の編成、教育課程の開発や評価などに関する理論について、文献講読等により知見を深めるとともに、今日における教育課程への多様な要請や、近年、人間を全体的にとらえ、思考力等の高次の認知スキルや社会スキルなどの育成を重視しそれらを教育課程に組み込もうとする世界的な動向を押さえながら、我が国における将来の教育課程の在り方について考察を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学調査特殊研究1B(教育心理)	心理学の研究法・統計手法の理論的理解を深め、それらを用いて自ら研究を進めるスキルを習得する。そのために、教育心理学、発達心理学に関する文献購読を行い、心理学の研究手法やテーマ設定について理解を深める。さらに、自分の関心のある研究テーマについて、心理学的な研究を行うための研究計画を作成する。	
	教育学調査特殊研究2B(教育心理)	教育心理学、発達心理学の代表的なトピックを扱った文献購読を行い、研究テーマの設定や研究法について理解を深める。さらに、自分の関心のある研究テーマについて、心理学的な研究を行うための研究計画を作成し、実際にデータを収集し、分析を行い、得られた結果をまとめ、発表する。	
	教育学調査特殊研究1C(教育行財政)	実務者への聞き取り調査等も含め、実践的な調査活動(現実の問題や課題に対する具体的・数量的把握、対処方策の実現可能性の判断に必要な情報としての、具体的人材の有無、財源措置の有無・量など)を行うことにより、国(文部科学省、財務省、総務省など)、都道府県、市町村が行う政策について、①実践的な観点から評価し改善方策を提言すること、②予防的施策(問題として顕在化する前のものを見つけ、その排除を行う方策)を企画・立案することを目的とする。そのために必要な理論的知識及び実践的な技法を指導する。	
	教育学調査特殊研究2C(教育行財政)	校長、副校長、主幹教諭等への聞き取り調査や児童生徒への質問紙調査を含め、学校現場に向いた実践的な調査活動を行うことにより、具体的な学校運営(小学校、中学校、高等学校の別に、規模等を勘案してタイプ分けする)に関して、学校評価(第三者評価も含む)、教員評価、地域との連携方策などについて、実践的な改善案を策定することを目的とする、そのために必要な理論的知識及び実践的な技法を指導する。	
	教育学調査特殊研究1D(臨床教育)	「臨床教育学」という新たな学問体系の確立に向けての動向と課題について理解する。さらに、感性教育の理論と実践について、日本感性教育学会の最新動向を踏まえて、先駆的な試みを中心に理解を深めることを目指す。 授業の柱となるのは、臨床教育学の必要性、臨床教育学の展開と系譜、臨床教育学の課題、感性の定義、日本文化の感性、「自分探しの旅」と創造的自己実現活動、感性教育の具体的実践と課題などである。	
	教育学調査特殊研究2D(臨床教育)	「脳科学と教育」に関する本格的な研究が国内外で広がっている。その動向と「脳科学と教育」をめぐる論争点について理解する。さらに、家庭教育支援の歴史の変遷をたどり、親としての成長を支援する親支援の国内外の動向と課題について理解を深めることを目指す。 授業の柱となるのは、「脳科学と教育」をめぐる国内外の動向と論争点、脳科学教育の具体的実践、家庭教育支援の歴史の変遷、親支援の国内外の動向と課題、親学の理論と具体的実践などである。	
	教育学調査特殊研究1E(生涯学習)	生涯学習研究のアプローチとして、①社会教育からのアプローチ、②学校教育からのアプローチ、③ライフステージ論からのアプローチ等各種のアプローチが考えられるが、本研究では、まず社会教育史に焦点を当て、教育の機会拡大の歴史と市民社会形成上必須な多様な社会教育機関の拡大に関する史的調査を行う。次に、生涯学習の発展に係わる各国、特に西欧と米国の行政施策と方針及び日本のそれらについて関連文献をもとに史的調査を行う。これらの中で、特にユネスコやOECDを中心とする成人教育施策について調査する。これらの調査を通して、生涯学習の理念形成史の背景を考察する。	
	教育学調査特殊研究2E(生涯学習)	生涯学習の理念形成上の思想的根拠を研究する上で、最も重要と考える教育思想として、J.デューイの自己実現論に焦点を当て、関連する著作の文献研究を行う。この研究を通して、生涯学習の教育目的に批判的考察を加え、現行の生涯学習体制の抱える諸課題について研究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	幼児教育学特殊研究1	今日我が国においては、少子化・子育て困難社会・格差社会の拡大・家族の変容・災害の影響等、子どもを取り巻く社会・文化的環境の急激な変容に伴い、子どもの発達にはさまざまな危機的状況（発達の障害や偏り・集団不適応等）が生まれている。本講では、これらの状況を踏まえた上で、乳児期から幼児期にかけての発達全般について理解を深める。内外の文献購読を通して、保育学・臨床発達心理学を中心とした、最新の研究成果や理論を検討する。	
	幼児教育学特殊研究2	幼児教育学特殊研究1に引き続き、幼児期から児童期にかけての子どもの発達をめぐる諸問題とその支援に関して、社会性と自我の発達の視点からアプローチする方法を検討する。様々な事例を取り上げながら、問題に即して、教育・養育現場におけるアセスメントから支援につなぐ方法を考えだし、自身で仮説を立て教育実践に活かす専門性を蓄える。それを通して、発達理論を発展的に検討しその理解を深める。	
	障害児者教育学特殊研究1	知的障害、発達障害（自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害）について、発達の視点からそれぞれの障害の認知特性、言語特性、記憶の特性、情動の特性を知り、有効な支援方法を学ぶ。また、実際の教育現場における知的障害や発達障害に関する授業実践を分析し、障害理解に基づく専門性の高い授業展開について考察する。様々なアセスメントを活用した指導計画の作成、具体的な支援方法の工夫、教材開発等の研究を行い、現職教員に支援方法の提供等も積極的に行えるスキルを習得する。	
	障害児者教育学特殊研究2	我が国における障害児教育の今日的課題である、インクルーシブ・障害者の生涯教育、社会参加等の現状について諸外国との比較研究を行い把握する。特にインクルーシブの意味、重要性を知り、インクルーシブを推進するために必要な理解啓発教育のプログラム作成及びの環境因の統制など具体的な方法論を研究する。研究に際しては発達障害者支援法の内容も理解し、障害児者が地域で生きるために必要な就労支援の意義と可能性についても研究する。	
	教科教育学特殊研究1	本研究は、教科教育学に関する二つの分野に特化して研究を行う。①英語教育及び英語科教育の教育法について、いくつかの代表的英語教育ないし英語科教育に関する目的について各々を比較検討し、目的に応じた教授法の根本的差異を分析し、各々の持つ目的の抱える問題点について考察する。この研究を進めるに際し、避けて通ることができない児童・生徒の発達上の課題と児童・生徒を取り巻く文化的課題を視野に入れ、現行の英語科教育の抱える問題点を研究する。②音楽教育及び音楽科教育について、いくつかの代表的音楽教育ないし音楽科教育の各々の目的についての理論的背景について考察し、各々の目的やその理論的背景が音楽科教授法の策定にどのように反映されているかについて研究する。この研究成果を基にして、現在の学習指導要領の内容を複眼的に捉える眼を養うことを本研究の目的とする。	
	教科教育学特殊研究2	本研究は、教科教育学特殊研究で修得した研究基礎の上に、各々の授業展開に係わる教育課程、教授法及び教材研究等について、特定研究領域を定め、授業分析を行い、そこでの課題を抽出し、その課題解決のための方策について研究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学特殊演習 I	<p>(概要) 博士論文を作成するために、研究指導教員から研究指導を受ける科目である。当演習では研究指導教員と議論を重ね、研究テーマを決定するとともに、研究課題の明確化を図り、博士論文の作成に備える。また、研究指導を通じて研究手法の高度化を図り、それぞれの文献研究及び調査研究の手法を確立する。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 青木 秀雄) 近代英国教育史に関連し、研究に資する技能を養うことを目的に、その方法論と技法としてのKJ法の基礎を修得し、博士論文の作成に繋げる。</p> <p>(2 小川 哲生) 生涯学習の歴史・理念形成をはじめ、諸外国における成人教育施策、現状の生涯学習体制の課題等をテーマに研究指導を行う。</p> <p>(3 笠原 順路) イギリス・ロマン主義文学をはじめ、イギリス文化一般、英語広域文化圏文化論、日本における英語圏文化の受容史に関する研究を行い、これに基づき英語教育のあり方について研究指導する。</p> <p>(4 齋藤 政子) 内外の文献購読と討論を通して、発達理論と乳幼児の発達過程を理解する。その上で、乳幼児の発達と保育の発展に貢献しうる研究のあり方と方法論について研究指導する。</p> <p>(5 阪井 恵) 多様な音楽観・音楽教育観を相対化する視野のもとに、21世紀の日本の音楽科カリキュラム開発に取り組み、「音色」「日本語発声」「日本伝統音楽」などを中心課題として研究指導を行う。</p> <p>(6 高橋 史朗) 英サセックス大学所蔵のジェフリー・ゴラー文書（「日本人の性格構造とプロバガンダ」を中心に）及び米ヴァッサー大学所蔵のルース・ベネディクト文書（「菊と刀」を中心に）等を基に研究指導を行う。</p> <p>(7 西本 絹子) 幼児期から児童期にかけての子どもの発達をめぐる問題に関し、社会・情動発達の視点からアプローチする研究方法（量的研究）を指導する。</p> <p>(8 林 一夫) 明治以降の国の義務教育施策及び高等教育施策について、予算の面から研究指導を行う。</p> <p>(9 吉富 芳正) 教育課程の意義、学習指導要領の変遷、国の教育課程行政等の教育課程の制度や政策に関連するテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(10 廣嶋 龍太郎) 日本近代の代表的な教育思想に関して、史料の読解、時代背景の検討といった文献研究の方法を用いた研究指導を行う。</p> <p>(11 布施 光代) 幼児期、児童期の子どもの概念や知識構造の発達の变化、小学生の子どもたちの積極的授業参加行動の様相とその変化について研究指導を行う。</p> <p>(12 森下 由規子) 知的障害、発達障害に関する日本及び諸外国の論文を検索・講読し、世界的な知的障害、発達障害の動向や課題を知り、研究のテーマ、研究の手法、研究計画を決定する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学特殊演習Ⅱ	<p>(概要) 教育学特殊演習Ⅰの研究指導に引き続き、博士論文を作成するために、研究指導教員から研究指導を受ける科目である。当演習では、決定した研究テーマ及び研究課題に基づいて、研究指導教員による研究指導の下、研究計画書を取りまとめる。また、研究計画に基づいて各種文献研究、調査研究を深化させ、研究成果を分析・検証し、論文としてまとめ、必要に応じて研究成果を学会等で発表させる。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 青木 秀雄) KJ法による現状把握ラウンドを用いて研究の精度を高め、近代英国教育史における事象を実証的に掘り下げて博士論文の作成に資する。</p> <p>(2 小川 哲生) 生涯学習の歴史・理念形成をはじめ、諸外国における成人教育施策、現状の生涯学習体制の課題等をテーマに研究指導を行う。</p> <p>(3 笠原 順路) イギリス・ロマン主義文学をはじめ、イギリス文化一般、英語広域文化圏文化論、日本における英語圏文化の受容史に関する研究を行い、これに基づき英語教育のあり方について研究指導する。</p> <p>(4 齋藤 政子) 近年の乳幼児の発達の諸問題や親子関係、発達支援について文献講読を行う。その際、量的研究・質的研究を組み合わせて行われた先行研究を検討する。</p> <p>(5 阪井 恵) 多様な音楽観・音楽教育観を相対化する視野のもとに、21世紀の日本の音楽科カリキュラム開発に取り組み、「音色」「日本語発声」「日本伝統音楽」などを中心課題として研究指導を行う。</p> <p>(6 高橋 史朗) 米オレゴン大学所蔵のウィリアム・ウッダード文書及び米スワースモア大学所蔵のヘレン・ミアーズ文書等を基に研究指導を行う。</p> <p>(7 西本 絹子) 幼児期から児童期にかけての子どもの発達をめぐる問題に関し、社会・情動発達の視点からアプローチする研究方法（質的研究）について研究指導を行う。</p> <p>(8 林 一夫) 明治以降の文部省の内部組織の変遷と予算額の関係について研究指導を行う。</p> <p>(9 吉富 芳正) 学校における教育課程の編成、カリキュラムマネジメント、教育委員会による学校支援等の教育課程の実際に関連するテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(10 廣嶋 龍太郎) 日本近代の代表的な教育思想に関して、史料の読解、時代背景の検討といった文献研究の方法を用いた研究指導を行う。</p> <p>(11 布施 光代) 幼児期、児童期の子どもの概念や知識構造の発達の变化、小学生の子どもたちの積極的授業参加行動の様相とその変化について研究指導を行う。</p> <p>(12 森下 由規子) 研究計画に基づき、情報の収集、データの分析、仮説の実証研究を進め、講義、討論を通して研究方法や仮説の有効性を検証し、解決手法の最適化を図る。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	教育学特殊演習Ⅲ	<p>(概要) 教育学特殊演習Ⅱの研究指導に引き続き、博士論文を作成するために、研究指導教員から研究指導を受ける科目である。当演習では、各種文献研究、調査研究の成果に基づき、研究手法、研究成果等を総合的に検証し、博士論文をまとめる。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 青木 秀雄) 近代英国教育史の本質をKJ法による本質追究ラウンドを用いて探究し、煮詰めてきた研究目標に沿った研究指導を行う。</p> <p>(2 小川 哲生) 生涯学習の歴史・理念形成をはじめ、諸外国における成人教育施策、現状の生涯学習体制の課題等をテーマに研究指導を行う。</p> <p>(3 笠原 順路) イギリス・ロマン主義文学をはじめ、イギリス文化一般、英語広域文化圏文化論、日本における英語圏文化の受容史に関する研究を行い、これに基づき英語教育のあり方について研究指導する。</p> <p>(4 齋藤 政子) 近年の乳幼児保育・教育研究や乳幼児の発達研究に関する研究課題と方法について研究指導を行う。</p> <p>(5 阪井 恵) 多様な音楽観・音楽教育観を相対化する視野のもとに、21世紀の日本の音楽科カリキュラム開発に取り組み、「音色」「日本語発声」「日本伝統音楽」などを中心課題として研究指導を行う。</p> <p>(6 高橋 史朗) 米議会図書館所蔵のマーガレット・ミード文書及び米コロンビア大学所蔵の大平洋問題調査議事録等を基に研究指導を行う。</p> <p>(7 西本 絹子) 子どもの社会・情動発達に関する研究課題と研究方法について研究指導を行う。</p> <p>(8 林 一夫) 学校評価（自己評価、第三者評価）における公立小中学校と大学の関係について研究指導を行う。</p> <p>(9 吉富 芳正) 教育課程編成の原理、教育課程の開発や評価等の教育課程の理論に関連するテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(10 廣嶋 龍太郎) 日本近代の代表的な教育思想に関して、史料の読解、時代背景の検討といった文献研究の方法を用いた研究指導を行う。</p> <p>(11 布施 光代) 幼児期、児童期の子どもの概念や知識構造の発達の变化、小学生の子どもたちの積極的授業参加行動の様相とその変化について研究指導を行う。</p> <p>(12 森下 由規子) 構築した知的障害、発達障害児者への指導・支援方法が、個々の多様な特性・ニーズに応えることができる独創性、新規性のあるものかどうかを検証し、博士論文の完成を図る。</p>	